

# カウンセラー

## ● プロフェッションとしてのカウンセラー

カウンセリングとは、専門的訓練を受けたカウンセラーが、こころの問題に直面している人、自己成長を目指している人に対して、その人の問題解決のために、相談や助言をしたり、その人との言語的コミュニケーションや人間関係を通して心理的援助をしたりするものである<sup>1)</sup>。カウンセラーは、本質的な解決策を見出すカウンセリング支援を通し、クライアントの人生を大きく決定づける場面にかかわることになる。そのため、カウンセラーには、高いプロフェッショナルリズムが求められる。

プロフェッションとは、「複雑な知識に精通し、熟練した技能を持つ職業で、科学的な知識、その習得、それに基づく実務が、自分以外の他者に用いられる天職」である<sup>2)</sup>。すなわち、プロフェッションは、それぞれの専門職、あるいは専門職集団を指す。さらに、プロフェッションには、自らの力量、誠実さ、道徳、利他的奉仕、公益増進に対して全力で貢献する意志が、社会から求められている。これらの意志を持ち、これを実践する社会契約を結び、その見返りにプロフェッションには、実務上の自律性や自己規制という特権が与えられている<sup>3)</sup>。

プロフェッショナルリズムは、プロフェッションとしての行動やプロセス、気概、職業倫理を意味するものとして用いられる<sup>3)</sup>。カウンセラーのプロフェッショナルリズムとは、自律性を持ち、社会契約に基づいたカウンセラーという専門職としてのあるべき姿勢・構え・行動様式ということになる。

## ● カウンセラーの国家資格化とプロフェッショナルリズム

カウンセラーが、専門職として認識されるには、1) 国によって認定された心理臨床家養成の大学院で一定のカリキュラムに従って教育を受けること。2) 国家によって実施される試験に合格すること。3) 有資格者として国への登録すること。4) 専門の学会への所属することと、鑑<sup>4)</sup>は述べている。

このように、プロフェッションとしてのカウンセラーには、公的機関における訓練・教育システムと法的規制が求められる。資格や法的規制が必要なのは、専門性を高めることを通して、クライアントへの確実な専門的援助行為や心理的援助を保証することが可能になるためである。カウンセラーの代表的な資格には、現在、公認心理師、臨床心理士、産業カウンセラーなどがあり、他にも数十種類の資格がある。

わが国では、公認心理師法が平成27年9月9日に議員立法により成立し、同年9月16日に公布、平成29年9月15日に施行されている。新たに国家資格化として誕生した公認心理師は、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析、2) 心理に関する支援

を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助、3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助、4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供の責務を担う。

アメリカでは、各州が「心理学者免許法」によって、カウンセラーの職務には法的な規制を設けている。また、アメリカ心理学会は、「心理学者のための倫理基準・事例集」や「サイコロジストのための倫理要綱および行動規範」を明確にしており、カウンセラーの職務は、これらの倫理基準によって規制されている。日本では、「公認心理師法」によって、保健医療、福祉、教育等その他の分野の関係者等の連携、秘密保持義務、信用失墜行為の禁止、資質向上が、公認心理師の責務として挙げられている。カウンセラーの守るべき基準として、「一般社団法人日本心理臨床学会」が倫理綱領を、それぞれのカウンセラー資格認定機構が、職務倫理指針を打ち出している。カウンセラーには、厳しい自制心と自己研鑽が求められる。

### ● カウンセラーの人間性とプロフェッショナリズム

カウンセラーは、カウンセリングの技術の中に、自らの人間性を織り込みながら、クライアントと対話をする。そのプロセスの中で、クライアントの持つ潜在力に気づかせ、問題解決への希望の力を強めることになる。そのため、カウンセラーは、カウンセリングの理論や技術の修得に努める必要がある。特に、その実践をしっかりと振り返る作業も必要である。また、人間味豊かに成長し、健康なパーソナリティを持つ存在を目指して、一段と研鑽を積むことが求められる<sup>5)</sup>。

カウンセラーは、クライアントに起こっている、メンタル不調、病気、争い、失敗という問題が、たとえ無自覚であったとしても、クライアントが「あるがままの自己」で、満足な人生を生きる上で必要な出来事と理解し、関わらなければならない。

カウンセラーのプロフェッショナリズムとして、カウンセラー自身が「あるがままの自分」を自己開示する姿勢と、たえず自らの未解決課題と向き合い続けている姿勢が肝要である。それによって、問題や躓きを抱えるクライアントに、少し先をいく仲間としての背中を見せることができる。

文献

- 1) 松岡達哉（編集代表）：カウンセリングハンドブック．丸善株式会社，2011
- 2) Cruess SR, Johnston S, Cruess RL: Professionalism for Medicine: Opportunities and Obligations, Iowa Orthop J,24, pp.9-14,2004
- 3) 大生定義：プロフェッショナリズム総論．京府医大，120, pp.395-402, 2011
- 4) 鑪 幹八郎，名島潤慈：心理臨床家の手引き 第3版．誠心書房，2015
- 5) 岡堂哲雄：カウンセリングの条件（岡堂哲雄監修：心理カウンセリング PCA ハンドブック）．至文堂，2002

（樋口倫子）